

思はれるのである。棲息場所は上に述べた所で明らかな様に、日當りのいゝ乾燥地で、クロヤマアリやクロオホアリの棲息にも適した所である。陰湿な感じの場所には見付けることができなかった。たゞクロオホアリとちがつて、營巢個所として古い樹木或は朽木等の存在を必要とすることは間違ひないと思はれる。棲息場所や營巢個所に關するこれらの點並びにその行動等は歐洲産 *vagus* と殆んど異なる様である。尤も歐洲の *vagus* は屢々家屋の材部に營巢するといはれ、又南歐ではコルク櫛に孔を穿つて害を興へるといふ。

ケブカクロオホアリの有翅蟲は私には未だ見る機會が與へられず、従つて飛出の時期についても知る所がないが、歐洲の *vagus* の飛出が盛夏である點からすれば、恐らく同じ時期であらうと思はれる。

ケブカクロオホアリ英彦山に産す

(英彦山昆蟲雜記—XLVI)

安 松 京 三

1939年の7月下旬私は英彦山南岳の南側、海拔約800m.の三呼峠附近で、クロオホアリよりも更に光澤があり且敏捷なオホアリの1種を數頭發見し珍らしいと思つたことがある。更に同年8月末澁谷壽夫氏が彦山生物學研究所に來訪された時、一緒に採集に出て英彦山神社奉幣殿の前庭(海拔約700m.)で同じ種類のを發見し喜んだことがあつた。この蟻が *Camponotus (Camponotus) herculeanus vagus* Roger var. *yessensis* Teranishi ケブカクロオホアリである事は寺西鶴造稿集を見るに及んで判明したのであるが、本種に關する森下正明氏の豊富な材料に基く御論文の原稿が私の手許に到着したので、その中に九州の英彦山をも産地として附加して頂く様に御願ひしたところ、私に記録してくれとの事であつたので、この餘白を利用して頂く事にした。本種の英彦山に於ける棲息場所や習性は全く森下氏の御觀察と一致して居るので重ねて記す必要はないが、それ以後私は本種に一度も出合しない。恐らく英彦山に於ても何處にも居るものでなく珍らしい種類の中に入れてよいものと思はれる。とにかくケブカクロオホアリが九州の山地にも居る事が判明したのは愉快で、更に調査を進めるならば九州の南部の山地にも發見の可能性があるのでなからうか。